

# 55プラス

## コミュニティカフェを作ろう①

### 住民集う居場所できた



健康マージャンを楽しむ参加者ら＝神奈川県大磯町の「こみゆにてー・パティオ 海鈴」

5月中旬の土曜日。神奈川県大磯町の民家の一室で、高齢者の男女のグループ3組が、マージャン卓を囲んだ。何も賭けない「健康マージャン」だ。

みんな、真剣なまなざし。静かだが時折、「あー」「そういうことか」と歓声が上がると、参加者の石山智恵子さん(79)は「こんなにはたたくさんの人に会える場所はない」と笑った。

ここは、「こみゆにてー・パティオ 海鈴」という名の「コミュニティカフェ」だ。商売で飲食を提供する喫茶店ではなく、「一人ひとりのつながりができる場」を目指して、4年前にオープンした。

作ったのは、長年、大磯から東京への通勤生活を続けてきた、広告会社勤務の富山昇さん(64)。50歳を超えたころから「定年後の大磯での暮らしは、どうしようか」と考え始めた。

自らの母も含め、周りには介護が必要な高齢者が増えていた。高齢者が自宅に引きこもらず、少しでも長く地域で過ごせる手助けができる場をつくれなにか、と思った。

自宅の敷地内の別棟を改装し、1階部分を20畳ほどのコミュニティカフェにした。今では知人らの協力を得て約20の教室が開かれ、土日も休みなしで「営業」している。参加費は1回500円程度。「コミュニティカフェを作って、自分の大磯での居場所もできた気がする」と富山さん。

岡山市の古民家を改築したコミュニティカフェ「親戚の家」では毎週木曜日の夜、「宵まちカフェ」と銘打って、若者とお年寄りが一緒に夕食を食べる。

平日の昼間はお茶と紙コップを用意し、地域住民に利用料300円で自由に過ごせる「居場所」を提供している。働いている人からも「利用したい」と要望が出て、2年前から、夜も開くことにした。

中心となって計画を進めたのは、藤本直行さん(60)。この家は、地域の人に見守られ100歳超まで生きた2人のおばの家だ。「地域の人に役立ててもらいたかった」と藤本さん。

定年後や子育てを終えた後を見据え、新たな社会貢献のあり方の一つとして「コミュニティカフェ」を開く動きが広まっている。

（松浦祐子）

▼あすは「オープンまでに必要な準備は、」です  
◆ご意見・体験はseikatsu@asahi.com

# 55プラス

## コミュニティカフェを作ろう②

### コミュニティカフェの定義 (長寿社会文化協会まとめ)

- ① 人と人が交差する自由な空間
- ② あらゆる情報の交差点となる場所
- ③ 人的ネットワークを広げられる場所
- ④ もっと素敵に生き方にチャレンジするきっかけになる場所

### コミュニティカフェの紹介

コミュニティカフェリンク集

<http://comisalo.com>

コミュニティカフェ全国

連絡会のブログ

<http://blog.canpan.info/com-cafe>



The Asahi Shimbun

## 実現したい「思い」を整理

「コミュニティカフェ」(コミカフェ)は、一般の店やカフェと、どこが違うのだろうか。

明確な定義は定まっていないが、コミュニティカフェ全国連絡会の事務局を務める長寿社会文化協会(WAC)では、表のようにまとめている。「カフェ」といっても、飲食はできなくてもよく、新しいコミュニティづくりの拠点になることが最大の目標であり、条件という。

「月1回の開設」でもいい。居場所づくりが目的ならば、食事はなしでお茶はフリーサービス、でもうまくいくかもしれない。

東京都世田谷区の岩瀬はるみさん(64)は、ケーキ作りの講師だった経験を生かしながら地域の居場所を作ろうと、週1回、自宅を「きままなスイーツカフェ」として開放している。

PTAや地域活動のメンバーが集まるほか、赤ちゃん連れでもゆつくりケーキが食べられると、近所のママたちにも好評だ。

実は10年前に始めた時には週2回開いていたが、数年

「月1回の開設」でもいい。居場所づくりが目的ならば、食事はなしでお茶はフリーサービス、でもうまくいくかもしれない。

東京都世田谷区の岩瀬はるみさん(64)は、ケーキ作りの講師だった経験を生かしながら地域の居場所を作ろうと、週1回、自宅を「きままなスイーツカフェ」として開放している。

PTAや地域活動のメンバーが集まるほか、赤ちゃん連れでもゆつくりケーキが食べられると、近所のママたちにも好評だ。

実は10年前に始めた時には週2回開いていたが、数年

年前から、ほかにもやりたいことができて週1回に減らした。ただ、こだわりのケーキはいつも毎週違うものを作り続けている。「細くても長く続けたい。無理せず、メリハリをつけることが大切」と岩瀬さん。

コミカフェは、目的も運営方法も多種多様だ。自分の考えを整理し、確認したら、いくつかのコミカフェを見学してみよう。

WACはインターネットサイトで全国のコミカフェを紹介しているほか、誰でも参加できる研究会を7月から毎月開くことになっており、参考になりそうだ。

▼あすは「困った時、悩んだ時の相談先は？」です

# 55プラス

## コミュニティカフェを作ろう③

### 社会福祉協議会の支援例 (世田谷区社会福祉協議会の場合)

- 会場の紹介や利用調整
  - 団体運営のアドバイス
  - 交流会や研修会の開催
  - 活動費の補助
    - 1開催につき千円を補助
- それとは別に会場費として
- 有料施設を借りる場合
    - 1開催につき上限500円を補助
  - 個人宅を開放する場合
    - 1開催につき千円を補助

月5回まで



The Asahi Shimbun

## 仲間と協力、社協の支援も

人や情報の交流拠点となるコミュニティカフェ(コミカフェ)は、一人でも始められるが、続けていくには仲間がいると心強い。群馬県太田市に2002年にオープンした「よろずや余之助」を運営するのは地元高校を卒業した同級生たち。仲間が集まるたびに「現役を退いた後、理由なく集まれる場所がほしい」「仕事で培った知識を地域で生かしたい」という話になったのがきっかけだ。空き店舗を活用し、集い

の場として喫茶店を運営するほか、建築士や社会保険労務士をしているメンバーの知識を活用し、「よろず相談」を受け付けている。会長の桑原三郎さん(63)は、「仲間がいるからこそ、一人ひとりの負担は少なく、無理なく運営を続けられている」と話す。埼玉県三郷市の「ラベンダー」は、パソコン教室で知り合った中高年の仲間たちが運営している。何人かが定年や早期退職をしたのを機に始めた。週に2回、料理が得意なメンバーの自宅を開放して、ランチも出す喫茶店を運営。近くでヨ

ガ教室なども開いている。自分たちだけでは不安という人は、全国各地の社会福祉協議会(社協)が支援してくれる場合もある。全国社会福祉協議会の担当者によると、十数年前から、高齢者の集う場や子育て世代への育児支援などを担う場として、「ふれあい・いきいきサロン」と呼ばれる場所作りを地域ごとに進めている。すでに全国に約5万数千カ所ある。横浜市青葉区の山下由喜子さん(68)らが開く「青葉ふれあいサロン」も支援を受けた一つだ。商店街の貸しスペースで、月2回、高

齢者向けに、手芸や折り紙をしながらおしゃべりする場を設けている。今は軌道にのって独力で運営しているが、設立から最初の3年間は、社協にチラシ配布を協力してもらったり、月1回は社協職員と会議を開いて、運営のアドバイスを受けたりした。山下さんは「社協には、様々なノウハウがある。素人ばかりだったので相談できてよかった」と話す。社協の支援策は、地域ごとに異なる。まずは身近な社協に相談し、自分の地域ではどんな支援があるのか確認するといいたいだろう。

▼あすは「開設資金、運営費用はご自身の？」です

## コミュニティカフェを作ろう④

### 資金集め NPOバンクが味方

利益追求ではなく、社会貢献を重視するのがコミュニティカフェ（コミカフェ）だが、開設するには、設備の購入やチラシの作成など、一定の資金は必要になる。しかし、実績のないコミカフェが、一般の金融機関から融資を受けるのは難しいのが実情だ。

そこで強い味方になるのが、市民が無配当で出資したお金を、社会的事業に低利で融資するNPOバンクだ。ただ、少しずつ増えているが、全国にあるわけではない。NPOバンクと別に、地域の信用金庫や信用組合でもコミカフェ支援に積極的に乗り出しているところがあるので、問い合わせてみよう。

無事、オープンしても、次は運営費のやりくりに知恵を絞ることになる。長寿社会文化協会の協力を得て、大分大学福祉科学研究センターが全国のコミカフェを対象に実施した調査では、収支が黒字のところは1割未満だったのに対し、赤字は4割強だった。重荷となりがちなのが、会場を借りる場合の家賃だ。人が集まりやすいところは当然、高い。公的施設は安価だが、予約が必要だったり、使用方法に制限があったりと、それぞれ一長一短がある。自分は何がしたいのかを整理し、バラン

スのよい場所を選ぼう。

収支改善には別の手もある。茨城県ひたちなか市の「コミュニティカフェ」では、

「高齢者の買い物難民が生まれてしまう」とNPOを運営を支える寄付の強化を

考えている。団地内にあった生協店舗の撤退を受け、市民有志が「高齢者の買い物難民が生まれてしまう」とNPOを

#### 主なNPOバンク

- 北海道NPOバンク  
【北海道】  
011-299-6940
- 未来バンク事業組合  
【東京】050-5534-3159(留守録用)
- 東京コミュニティパワーバンク  
【東京】03-3200-9270
- 女性・市民コミュニティバンク  
【神奈川】045-651-2606
- NPO夢バンク  
【長野】026-223-4321
- コミュニティ・ユース・バンクmomo  
【愛知】052-331-5695



The Asahi Shimbun

▼次回は8日から「城を巡る」です

立ち上げ、店舗を借り受けた。2005年から食料品販売や喫茶、趣味の講座など様々な事業を行う。

現在、10万円以上の会費（寄付）でなれる正・賛助会員数は計300人超。改正NPO法で、3千円以上の寄付を100人以上から集めると税制優遇が受けられることになったため、会員に寄付額の引き上げを呼びかけている。塚越教子理事長(70)は「地域で必要な事業を、みんなで支え合えるようにしたい」と話す。

(松浦祐子)